



変化と発展

校長 鹿倉朋宏

今年度は「障害者差別解消法」の施行による合理的配慮の提供義務、かつてない報道量と注目を浴びたりオパラリンピックなど、共生社会への発展が加速していく年であったと思います。特別支援教育に向けられる期待も教育界全体において大変大きなものとなっており、特別支援教育は「共生社会形成の基礎となるものである」（平成19年文部科学省通知）という位置づけが実感としてますます感じられました。特別支援教育発展の中核を担う特別支援学校の教職員は、こうした状況を十分に自覚して専門性及び指導力の向上に一層努めていくべきことを日々痛感しております。

開校6年目にあたる今年度は、本校の成長期という視点に立って今までの実践成果と課題及び今後の社会の流れをふまえて、新たな目指す学校像と重点目標を定め、より質の高い教育を目指して実践研究にとりくみ始めました。共生社会の進展に伴うこれからの特別支援教育のキーワードは「主体性」であるといえます。教師の個別的な手厚い支援から発展して、子どもたちが自立的・主体的に授業に参加できる授業への改善を進めることにより、自分なりの意思や判断をして責任を持って行動しようとする力を身につけることがねらいです。この研究を学校全体で進め、一定の成果をあげるまでには本校教員の意識変革とある程度の期間が必要ですので来年度も引き続き進めていきます。

今年度の学校公開では多くの方々にご来校いただき、子どもたちがのびのびと落ち着いて学んでいるなどの評価をいただき、満足度は97%でした。年3回行われた学校評議員会では文化祭のステージ発表もご覧いただき、本校の取り組みが新たな段階に進んでいるという評価もいただきました。年度末の保護者アンケートにおいても教育活動全般及び本校教職員について概ね良い評価をいただきましたが、専門性向上や教師の連携体制などでさらなる改善をとのご指摘も一部いただいております。これらの意見は真摯に受け止め全校の課題として取り組んでまいります。本校の今年度の成果と外部評価も来年度の課題等については、「学校自己評価システムシート」という形式で裏面に掲載されていますのでご覧ください。

保護者並びに地域・関係機関の皆様、本校の教育活動充実のために今年度も様々なご支援ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

